

柘田 それは、人の温かさだと思います。コロナ前は両親が広島に来ることもあまりなく、ご近所さんが、祖父母の代わりにしてくださっていました。例えば家からスーパーに行く途中、ご近所のおばあちゃんが泣いている息子に声を掛け、ポケットからティッシュを出して鼻を拭いてくれたこともありました。子育て世代の友達もたくさんできて、公園で子連れ同士遊んでいて夕方になったら順に買い物へ行き、その間、子どもたちをみんなで見て、悪いことをすれば叱ることも。案外、他のママに言われる方が素直に聞くんですね。そんなふうにご近所同士で支え合って子育てをしてきました。コロナ禍に両親が手伝いに来てくれるようになって、普段、私がお世話になっているそういうご近所さんたちやママ友たちを紹介したんです。大都会にはない近所付き合いというものが広島には残っていて、人の温かさに触れることができるのが、二人共、気に入っているようです。

市長 なるほど。もともと大きな平野があって人口が増え発展してきた関東や関西とは違い、広島市は今でこそ人口120万近い大きな都市ですが、地形的には平野が狭くて山に囲まれて。その山を含む周辺の市町と合併して、ここまで大きくなってきました。旧来の市町の地域コミュニティが残っているから、お互いにご近所で支え合う風土や人の温

かさが残っているのかもしれないですね。一方で、都会ではそういったご近所に頼らなくても、自分が対価を払ってサービスを購入すれば生活できると考える人が増えてきて、地域と交流する人が減り、柘田さんが感じられた人の温かさが残るまちが少しずつ減少してきている現状もあります。ですから、田舎と都会のそれぞれの良さを生かしつつ、時と場合によって使い分けられる、そんなまちであり続けながら、人の温かさが残るようなまちづくりを積極的にできたらなと思っています。

柘田 人の温かさが残る、私たちの好きな広島のまちがこれからも残ってほしいですね。



地域を元気にする ひろしまLMO(エルモ)

市長 そんな人の温かさが残る居心地の良いまちであり続けるために、市は地域コミュニティの活性化を重要施策の一つとして掲げ、現在、「ひろしまLMO」という取り組みを進めています。聞いたことはありますか。

柘田 はい、耳にしたことはあります。

市長 地域を見ると、地域活動への参加者の高齢化が進み、活動に参加しない若者も増えるなど、限られた人が地域の中で活動している状況となっています。そういう中で、地域活動にまずは参加してもらえるよう環境を整備しようと考え、始めた取り組みがひろしまLMOです。いろいろな団体が一堂に集まり、取り組み内容を話し合う。そして、一つの団体を作り上げ、市に申請し、その団体を市がひろしまLMOとして認定する。



ひろしまLMOに対しては、人件費、活動拠点維持管理・運営費、地域課題を解決するための事業経費として合計で年度上限額600万円の運営助成金を毎年交付することとしています。さらに、今までまちづくりに取り組む地域の団体が個々に市(区)に申請し、市が出していた補助金についても、来年度からは市社協を通じてひろしまLMOにまとめて出すという方式に転換したいと考えています。現在(令和5年12月18日時点)17の団体をひろしまLMOと認定していて、今後は、市内に141ある小学校区全てで、ひろしまLMOと認定した団体が活動することを目指しています。柘田さんのように県外から移住してきた人が地域活動に気軽に参加し、自分のまちの魅力や地元の温かみを感じてもらえることを願っています。

柘田 まず住人がその地域のことを愛していて、まち全体が活気づいて生き生きとしている、そんなまちに魅力を感じます。中国地方で頑張っている企業を紹介するテレビ番組に出演させてもらっているのですが、お会いする多くの方が、一度他県に出たけど、自分が育ってきたまちの元気がなくなってきたので、再び元気にしたいとUターンなどして働いていらっしゃる。そういう思いを持った人たちが動き出すと、地域が息を吹き返す

ということを見てきました。ひろしまLMOもそうだと思いますが、地域を元気にしたいという輪が大きくなって、ものすごいパワーを生み出すのではないかと思います。

地形から見る 広島広域都市圏の魅力

市長 市を地形から見ると、中心部のデルタ部分とそれを取り囲む平野、さらに中山間地で構成されています。全体の面積は約900平方キロメートルに対して、都市機能が充実しているデルタ部分は約45平方キロメートルぐらい。広島広域都市圏は、広島市中心部からおおむね60キロ圏内で構成しています。大阪市役所を中心とした関西、東京都庁を中心とした関東と比較すると、距離感をイメージしやすいと思います(下図)。

柘田 地図で比較するとよく分かります。60キロって確かに広いですね。



市長 広島広域都市圏は実はほとんどが山。その中で市が都市の性格と田舎の性格の両方を保持している理由は地政学的に見ても明らかですね。

私が、この中山間地の生活とデルタの生活両方をうまく調和させながらまちをつくることを目指す理由がここにあります。田舎主体の生活をしながらたまに都会に行く、都会の生活をしながら休日に田舎の生活に触れる。そういったお互いの良さを生かしたまちづくりというのは、おそらく東京や大阪と違う都市づくりにつながると考えています。広島広域都市圏内の住民がお互いに行き来して、圏域全体を元気にすることを目指しています。

柘田 私も圏内をよく行き来します。安芸太田町、北広島町、安芸高田市、東広島市、呉市など。特に三次市にある観光農園や廿日市市の宮島にはよく行きます。1時間ちょっとで行けるのに旅をしたような気分を味わえますね。

市長 そうですね、圏域の範囲を60キロとしたのは、まさに時速60キロの車で1時間程度で行けるからです。

柘田 なるほど。だからこの範囲なのですね。

市長 広島駅とか紙屋町・八丁堀のデルタ部の狭い領域に、音楽やスポーツ、文化を楽しめるいろいろな機能を充実させる。それを圏域の人々の財産として利用していただく。そういう発想で東京への一極集中ではなく、この地域に住み続けたいと思う人を増やしていきたいです。



広島市長
まつい かずみ
松井 一實(70)

あけましておめでとうございます。2024年が市民の皆さんにとって良い年でありますよう、お祈り申し上げます。

広島広域都市圏

広島市の都心部からおおむね60キロの圏内にある、東は三原市エリアから西は山口県柳井市エリアまでの28市町で構成しています



広島市役所を中心とする60キロ圏



大阪市役所を中心とする60キロ圏



東京都庁を中心とする60キロ圏